

三好記者・名倉記者 感想

地震が起きた時に大事なことというのを今回、初めて理解できた。なぜなら今まで避難すること・命を最優先にすることが一番大事だと思っていたけど、人を思いやる気持ちと助けようとする心が一番大事なのだと今回感じたからだ。

記者公演感想

今回、話を聞いて僕はもう1度、地震のことについて知りました。映画を見るのとは違い、本当の体験した感想などを言っていて、違うことを学べました。名倉記者が言っていたおじいさんの体験の話は本当に、つらいことで、悲しいことだと感じました。地震を体験したことがないからわからないけど、すごく怖いものなので対策したいです。

記者講演感想

三好記者の話を聞いて自分は改めて地震に対する対策を身の回りでしつかなければ無いなと思いました。それと地震が起きたときに考えることな頭の中を整理して冷静に対処しなきゃ自分の身を守ることができないと思います。今回の講演を通して地震による対策、考えること、行動など考えながらしていきたいなと思いました。

記者講演感想

自身の備えは色々必要として、その中でもいちばん大事なのは食料だとわかった。

自身はいつ来るかわからないから自分のいつもいるとこのそばに逃げるときに必要なものをおいておくと大事なときに逃げられるということがわかった。

自分が逃げるだけじゃなくて、家族や友人なども助けることが大事だと思った。

自分の息子がいちばん大事な時に地震で死んでしまっていて、自分が死ななくても、嫌なことはあるとわかった。

おにぎりもみんなの手で黒くなってしまっているものも、生きるために食べなければならぬとわかった。

地震の備えは、いつ用意してもどれだけ用意しても邪魔にはならないということがわかった。自分のちゃんと自身が着たとき用に準備しておこうと思った。

阪神淡路大震災のときの話や当時どんな食事をしていたか、どんな気持ちだったかを知ることができた。そしてこれから起きる南海トラフ巨大地震などの大地震にはどんな事が大事なのか、僕はこの三好記者、名倉記者の話を通して、常にいつ災害が来ても大丈夫なように非常食、ライトなど対策法を学んでおくこと、家族と話しておくことだと感じた。実際に阪神淡路大震災を経験した人からの話を聞くことが少なくなるかもしれないけど、僕が三好記者、名倉記者のように語り継ぐ人になっていきたいし、阪神淡路大震災についてもっと知っていきたい。

〈記者講演感想〉

今日の話を聞いて、震災は自然に起こってしまうものなので私達の力ではどうすることもできないけど、備えることは誰にでもできるということ。私達は阪神淡路大震災の恐ろしさを知らないから、実際に何があったのかは正確に知ることは不可能なことである。でも、少しでも知ることで、何も知らない自分よりは良いことだし、次の世代に災害というものを伝えることができる。なので、今日話てくださった内容は全て大切なことなので、心にしっかりと刻んでおく。そして、もしまたこのような大きな災害が起きても、しっかり備えて自分の命を大切にしていく。一度亡くなつた命はもとには戻らない、毎日を一生懸命楽しく過ごすことが大事だということ。

災害に備えてすぐ逃げれるように防災リュックを常に玄関の近くに家にいる人数分用意していました。しかし、普段食べない菓子パンとかがはいっているのでそれを食べたことがある無印良品のご飯とかに変えて普段食べれているご飯にするのもいいなと思いました。

今ではきれいな建物が建っているけれど昔は地震などで建物が傾いたり建物で道をふさいでしまっていと知りました。阪神淡路大震災の時3姉妹の次女はなんとか助かりましたが3女は声をかけても返事はなくそこで亡くなってしまったと分かり、残酷だなと思いました。

三好記者と名倉記者の話を聞いた感想は、阪神淡路大震災で亡くなってしまった人達が本当に沢山いた事や、人が沢山亡くなるほどの力がある事を改めて知り、地震などの災害の恐ろしさを知った。名倉記者が阪神淡路大震災で13歳の子供を亡くした父親の話を書いた記事の内容を聞いて、地震の恐ろしさを知りこれからはもっと地震や火災などの災害への対策を家でもきちんとやっていこうと思った。三好記者と名倉記者の生徒からの質問の答えを聞いて、これから的生活にもその答えを活かしていこうとも思った。

三好記者　名倉記者感想

僕は、今回の神戸新聞の記者さんの話を聞いて災害の怖さを知りました。なぜなら、いつ、どれくらいの強さの災害が起こるか分からないからです。そのため、名倉さんが言っていたように災害に備えて損はないから早めに防災グッズやレトルトのカレー、インスタントラーメンなどの食料などを家に買っておくことが大切だなと思いました。また、名倉さんのように阪神・淡路大震災を知らなくてもどんどん語り継いでいき、災害の際に亡くなる人の数を少しでも減らせるようしたいです。そして、2035年前後には南海トラフ大地震が起こると言われているからそれを経験して、次は僕たちが災害のことについて語り継いでいくチャンスなんじゃないかなと考えました。（317時）

震災があったとき準備するものに、充電器が必要だとゆうことを初めて知った。阪神淡路大震災を今後伝えていく人がいなくなっていて、自分がそのことを覚えておき、小さい子供たちに阪神淡路大震災で起きたことを説明してあげるようにしていきたいと思う。名倉さんが読んでいた新聞を聞いて、三女の人人が死んでしまってその現実を受け入れて、先生やクラスメイトの人たちが来ても帰ってくださいとゆって最初は理由がわからなかつたけどだんだんと聞いていくうちに何回も來るとその出来事を思い出してしまふからとゆふことを知った。そしてガラスなどが足に突き刺さることがあるからスニーカーが大事だとゆふことを知った。昔の神戸新聞の編集局を見たりして、ガラスがすべて割っていたから危ないと思い、他にもその階層が潰れたりしていたから地震の怖さがわかった。その地震で津波が来るときもあるから、その2つの災害に備えることも大切なんだと知った。

講演記者 感想

ドラマでも阪神淡路大震災の怖さがわかったけれど、実際にあった人のことを聞くと「怖さ」もあるけれど「虚しさ」や「悲しさ」の方がありました。地震は「いつ起きてもおかしくない。」と思うと恐ろしく感じました。家族で地震が起きたときに会う場所や具体的に何をして何をしたらダメなのかというのをまだ把握していないので改めて相談しようと思いました。そして、YouTubeやネットの詐欺情報などで騙されがちな人が多いことは知っていたが、それをどう見抜くのかが、分からないので三好記者が言っていたように「ネットなどの日付は大体は信用しないほうがいい。」というのを聞いてネットなどから少しでも対処できるのでとても嬉しいです。地震の怖さを知ったからこそできる対策がとても多くなると思いました。なので、今日のことを南海トラフ巨大地震に備えていきたいと思いました。

「記者講演感想」

今日の三好記者と名倉記者のお話を聞いて、本当の地震は自分が思っているよりももっと恐ろしいものであると分かった。そして名倉記者がおっしゃっていたように、「自分は阪神淡路大震災を経験していないから後世に伝えない」ではなく、実際に経験した人から聞いて、もうこんな気持になつてほしくないという被災者の人の気持ちを自分の子供などに伝えていくことを繰り返していかなければならぬと思った。自分は家族と地震が起きたときの避難場所をあまり話し合ったりしていないので早く家族と話し合い、防災グッズも確認するようにしたい。

三好記者＆名倉記者講演感想

震災などの大規模な災害ほど理不尽で危険なものはないということを知れました。それに加えて、生きていく中で一度は災害による悲劇を体験してしまうかもと考え、その悲劇に備えていきたいです。あと、災害が来ても気持ちを落ち着けて冷静に行動するときは、「かも知れない」ともしもの場合を考えられる様に日々取り組んでいこうと思いました。

記者講演感想

今回の講演を聞き、神戸新聞の方々も他の新聞の方々、市民の方々の助けがあって当時生活していたというのがわかり、自分も理由をつけずに助け合える人になりたいと改めて感じた。

今回講演をしてくださった記者の方は備えの部分で後悔が残ったと話していらっしゃったため、講演の中であった備えの話を元に自分の過程でしている備えを見直すきっかけにもなった。

話の中に出てきた「まさか」が実際に起こらないように日々の生活の考え方を変えていきたい。

記者公演感想

みよし記者、名倉記者がいっていたとおり後悔しないためにも日頃から備えておくことが大切だと思いました。これから南海トラフ巨大地震などが起こると予想されたり、様々な地震が起きると思うので、家族としっかり話し合ったり、備えておこうと思いました。

また阪神淡路大震災が起きて実際に家族を失った人の話を聞いていつ自分が死んでいてもおかしくないのでこのときに備えをしていれば誰かが死んでいなかつたかもしれないなどそういうことのないようにしたいと思います。

お二人の話を聞いて、前見た映画でしたることを
もっと深く知ることができました。嶋田さんが質問
していた、災害のときに持っていたほうが良いもの
とはなにか、という質問で、今まで災害時に必要
なものとかはあまり考えていなかつたけど、お二人
の意見を聞いて、家にある災害用のカバンをチェック
しておきたいと思いました。名倉さんが取材して
いた、中学二年生の子供をなくした方の話を聞い
て、自分ももしかしたら死んでしまうのではないか
と思いました。でも、死なないように災害が起こっ
たらどうしたら良いかを冷静に考えるのが大事だ
と思います。

○阪神・淡路大震災講習会感想

- ・ 今日実際に三好記者と名倉記者に来てもらい震災当時の状況や復興について教えてもらいました。復興にも時間が要したのがわかりました。災害時に備蓄するのには何が適しているのかわかりました。一度家に帰った後災害時に備蓄していたのを確認する機会にもなりました。
- ・ 本日の講習を聴いて思ったのが阪神・淡路大震災は僕たちの想像以上に惨状だったのがわかりました。発生時刻が冬期の早朝だったこともあり、明かりや暖も必要でしたがなくまた、家屋が倒壊し家に閉じ込められ圧死やなんとか生き延び避難所まで到着したが、特に高齢者等の持病等が悪化しても適切な治療が受けられなくて亡くなられた方もいることがわかりました。

今日の三好記者名倉記者の講演を聞いて
阪神淡路大震災を実際に受けた人と受け
ていない人の2つの意見を聞くことができ
てとても納得するところもあり聞けて
本当に良かったと思いました。名倉記者
がおっしゃっていた命はなぜ大切なのは自
分でもしっかり一度考えてもいいなと思
いました。記者で震災を受けた人の気持ち、
感想はあまりしすことができないので三好記者の気持ちはとても大事だと思
いました。

記者講演感想

今回の話を聞いて、

地震とは、ただ怖いだけではなく
いつ、どれほどの大きさ、被害、
死者の数、苦しみがあるからこそ
本当に怖いんだと思いました。

たった数秒の揺れでは

驚くだけですぐ冷静に慣れる、とは
どんな人間でもなりません

何故なら、神戸新聞の7日間や、実際の話を聞いても分かる通り、
人間というのはいつどんなときでも予測していなかつたことが
起きると、緊張と混乱のせいで取り乱します

自分だって、急に地震が来て揺れたら一瞬頭が真っ白になり、混乱しま
す、でもその数秒後から段々と冷静を取り戻して
あ、今揺ってるんや。と思って対処ができるようになります

だから神戸新聞の7日間でも、最初は混乱して、段々冷静になって
対処できたと自分は思いました。

お二人のお話を聞いていても、人というのは絶対混乱するというのに
実感しました。この話を聞くのは最後になるかもしれないから
毎日、今日聞いた言葉の重みを覚えて生きていきたいです（425）

「記者講演感想」

三好さんとなぐらさんの話を聞いて自分はあんまり大きな地震を体験したことがないけど実際に体験した人の話を聞いてみて逆に地震が起きたら冷静に判断できるんだとわかった。今の時代よりもっと先の時代になっていくと阪神淡路大震災のことを忘れてしまうかもしれないから三好さんとなぐらさんみたいな阪神淡路大震災のことを次の世代に伝えていけるような人がいて良かったと思う。私の家では地震が起きたらどこに行くとかは話しあっていないから話しあったほうがいいことが改めてわかった。家に防災グッズを準備しておいたほうがいいことを知ったけど中身はどこで買えばいいか分からなかつたけど無印良品のレトルトカレーとかを買えばいいことがわかった。防災グッズの中身は飲料水、食料、衛生用品、医薬品、貴重品、照明器具、情報収集ツール、季節用品、小物類(ハサミ、ナイフとか)を入れることがわかった。

今日の話を聞いて災害はとても怖いと感じました。

あまり災害についての対策などをていませんでした。いつ災害が起きるか分からぬから特に棚などはしっかり固定などをしたいです。まだ、災害には経験していない私達ですがしっかり災害にそまえます。

命は自分で守らないといけないことを改めて知ることができました。ちょっとでもケガを少なくしていきたいです。今日は災害だけでなく新聞を読んで情報などをしれたらいいなと思いました。新聞を作っている人にも感謝したいです。災害が起きた時に苦労してきたことが分かりました。まだ、災害には経験していない私達ですがしっかり災害にそまえます。

身近な人がなくなってしまったり家族がなくなった人もいるので、その時に取材されたら悲しくなると思つても、1からどんなのだったか教えてくださいなど、悲しむけどしっかり聞いたり、新聞に使つたりしてどんな状況なのか伝えるのは悲しむ人がいてわかるのだと思いました。

たながすべったり、床、壁、天井にヒビが入つたりとも怖くて焦って、動いたりしちゃうかもしれないの、しっかり防策、地震の予防をしとかないといけないと思いました。

いつ地震が起きてもいいように備えるのが大切なに、備えなくてもいけるやろと思っていたので、お話を聞いて、49人もなくなっているし、備えることをしようと思いました。

記者講演感想

大震災を経験していないけど、今日の講演を聞いて、震災の恐ろしさや、震災を伝えていくことの大切さを学んだ。私達が住んでいる阪神やその付近で起きた地震なのでより深く震災について考えていこうと思った。震災はいつ来てもおかしくない。とくに南海トラフ巨大地震は近年起こることを予測されており、起きないことはないだろう。少しでも被害を抑えるためにも日々備えていきたい。名倉さんが言っていた「まさか...」で済ませないためにも油断はできないと感じた。自分の命や周りの命、これから命のためにも色んな人に震災について伝えていきたい。三好さんは地震が起きたとき後悔をしたといっていた。「備えておけば...」「話しあうべきだった...」と後悔をしないためにも、今備えておくべきだ。

今回の講演で阪神淡路大震災はとてもすごい地震ということが改めて分かったりました。記者さんが今もし地震が起きたらどうなっていると思いますかと言っていて僕は、なんとかなるんじゃないのかと考えてしまいました。なぜなら、人間はポジティブ思考となっておりそのせいでなんとかなると思っていたそうです。これをきいて僕は、もしも死んでしまわないように防災意識を高めたり、防災セットを作ってもしもに備えたいです。また他に印象的だったことは記者さんたちの意見でスマホより新聞をよんでもほしいということです。理由は、動画はパワーがすごく強くそれに対し新聞は、写真や文字だけで文字だけの物もあります。文字だけだと色々考えたりすることができるからだそうです。これからはいつ災害が来ても大丈夫なように家族と話し合ったり、自分の命についてより深く考えたり、いつ大地震起きても大丈夫なようにしたいです。

三好記者　名倉記者感想

私たちが産まれる 15 年前の阪神淡路大震災も今では 28 年前。そんな 28 年前の 1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分 52 秒の阪神淡路大震災について、写真、音楽などつけたり、話して下さりありがとうございました。

私たちは産まれてなかったので、この地震は体験してなかったですが、三好記者、名倉記者のお話を聞いて、もしかしたら、また地震が起こるかもしれない、無印で地震の時食べるもの買ったりして備えないといと！って思っています。

今日は本当にありがとうございました。

記者講演感想

名倉さんも、同じ阪神・淡路大震災のあとに生まれて、話を聞いてもその時の出来事は、体験した人たちにしか分からぬけど、その出来事に向き合うことで、助かる命があるかもしれない。実際に震災を体験した人たちがどんどん減ってきてしまう中で、今回実際の話を聞くことで、震災のことを「もっと知ろう」と全然知れていないところもあることが分かった。家族と話し合うだけでも、ちゃんと役に立つし、すぐに、自然災害などが起こらなくとも安全対策や非常用バックを用意しておくだけでもいいと思った。

今回の三好記者、名倉記者の講演をして私は前よりもさらに震災の恐ろしさや、怖さ、理不尽さを知りました。震災が起こり沢山の人が亡くなっていることを知り、この講演で私は、いつ来るかわからない震災に向けて、対策を考えておき備えておくことがとても大事なことだなと思いました。そして、震災が来た後に、こうすれば良かった。と、後悔がないようにして、こうしておいて良かったと言えるようにしておこうと思いました。他にも今教えられたことを次の代の人たちに教えて繋げていきたいなと思いました。